市町村職員等在宅医療・介護連携基礎研修　実施概要

平成28年６月９日　長寿社会課地域包括ケア推進担当

（28.10.4修正）

１　目的

　　市町村が主導して進める地域包括ケアシステムの構築に向けて、市町村職員に必要な知識を習得させ、在宅医療・介護連携に係る施策の企画立案を促すとともに、管内や近隣地域で実践している者を紹介し、交流を持つきっかけを提供するため開催する。

２　研修の運営方針（ねらい）

　　日常生活圏域で必要な在宅医療を理解できるよう、次の各号の視点でカリキュラムを構成する。

　(1)　医療と介護の一体的なサービス提供、相談支援に必要な知識

　　①　住民に対し、在宅医療の具体的な内容について説明することができるようにすること。

②　退院支援、日常の療養支援、急変時の対応、看取り（以下「在宅医療の４つのフェーズ」という。）において、医療と介護の関係者が調整しなければならない業務の概要を具体的に説明できるようにすること。

③　在宅医療の４つのフェーズにおいて、住民や患者が抱く漠然とした不安感を理解し、これを解消できるよう働きかけができるようにすること。

　(2)　在宅医療・介護連携に係る政策の企画、調整に必要な知識

　　①　在宅療養者に必要な地域の医療・介護資源を把握するために必要な知識を習得させること。

②　本県の多くの地域が抱える課題である医療資源の偏在や人材の不足に対応した施策を立案できるようにすること。

③　管内の医療従事者と介護関係者の連携推進を目的とした研修や会議を企画できるようにすること。

　(3)　住民に対する在宅医療の普及啓発に必要な知識

①　住民が在宅療養に関して有するニーズを把握するとともに、実態との差異を解消するための施策を立案できるようにすること。

②　住民自身が有する医療への心理的依存や過信の覚知を促すとともに、住民の自己学習やセルフケア、かかりつけ医を中心とした継続的な医学管理の実現に向けて、働きかけができるようにすること。

３　受講対象者

　(1)　市町村職員

　　①　高齢者福祉・介護保険担当職員

　　②　保健・健康推進担当職員

　　③　公立医療機関及び国保直診医療機関担当職員

　(2)　在宅医療連携拠点の業務従事者

　(3)　地域包括支援センターの職員であって、任命権者（使用者）より在宅医療・介護連携に係る業務への従事を命じられた者又は将来同業務に従事する可能性がある者

４　実施方式

　(1)　事務局

　　　長寿社会課（地域包括ケア推進担当）

　　　研修運営は一般社団法人岩手県医師会に委託。

５　日程、カリキュラム及び想定する講師陣

　　延べ２日間、延べ講義等６時間で編成する。開業医や医療従事者を講師に充てるため、開催時間帯は夕方16時以降を想定。

| 日程 | 項目 | 具体的な内容 | 時間数 | 講師 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 盛岡会場 | 奥州会場 | 釜石会場 |
| １日目盛岡11/28（月）奥州10/17（月）釜石10/26（水） | 総論 | 在宅医療の背景、制度、在宅医療・介護連携における市町村の役割 | 30分 | 行政職員 |
| 各論　在宅医療の実際 |
| １　退院支援 | 　在宅医療の導入部で行われる内容を理解。 | 30分 |  |
| ・急性期病院における退院支援 | （15分） | 県立中央病院荻野絢子地域医療福祉連携室師長補佐 | 県立胆沢病院氏家育美地域医療福祉連携室主任看護師 | 県立釜石病院黒渕ひとみ地域医療福祉連携室主任看護師 |
| ・在宅療養に向けた準備の実際 | （15分） | 訪問看護ステーションもりのみやこ森明子所長 | 水沢病院訪問看護ステーションきらり遠藤恵所長 | 訪問看護ステーションメディケアガルシア小織所長 |
| ２　日常の療養支援 | 　在宅医療において行われる具体的内容を把握。 | 60分 |  |
| ・訪問診療による日常的な医学管理 | （15分） | 本間内科医院本間博医師 | 奥州市国民健康保険まごころ病院及川雄悦院長 | せいてつ記念病院寺田尚弘副院長 |
| ・訪問看護による療養支援 | （15分） | 訪問看護ステーションもりのみやこ森明子所長 | 水沢病院訪問看護ステーションきらり遠藤恵所長 | 訪問看護ステーションメディケアガルシア小織所長 |
| ・訪問歯科診療及び栄養指導 | （15分） | かど歯科クリニック米持武美医師 | 中田町歯科医院朴澤弘康医師 | おいかわ歯科医院及川陽次医師 |
| ・訪問薬剤管理 | （15分） | 一般社団法人岩手県薬剤師会会営内丸薬局押切昌子薬局長 | ナカノメ薬局中目祐幸氏 | 一般社団法人岩手県薬剤師会中田義仁常務理事 |
|  | グループ討論（その１） | 　講師≒地域の実践者であり、講師は各班に分かれて助言者を務めるとともに、受講者と交流を図ることを主眼に実施。（テーマの例）・地域の医療介護連携に関する現状と課題について・在宅医療を進めるためにどのような取組みが必要か・医療と介護の敷居とは何か／敷居を乗り越えるために | 60分 | 司会者未来かなえ機構　安部白道事務局長 | 司会者在宅医療連携拠点チームかまいし　小田島史恵連携コーディネーター | 司会者在宅医療連携拠点チームもりおか　板垣園子所長 |
| 上記のほか、１及び２の全ての講師が各班ごとに助言者として参加 |
| ２日目盛岡11/29（火）奥州10/18（火）釜石10/27（木） | ３　急変時の対応 | 　「急変」の概念が医療従事者と介護関係者、住民でそれぞれ異なることを理解しながら、高齢者における慢性疾患で生じる「急変」の具体例とその対応を把握。 | 45分 |  |
| ・高齢者における慢性疾患で生じる「急変」の具体例 | （15分） | 訪問看護ステーションもりのみやこ森明子所長 | 金ケ崎町訪問看護ステーション高橋嬢子所長 | 訪問看護ステーションメディケアガルシア小織所長 |
| ・高齢者救急現場の状況 | （15分） | 盛岡地区広域消防組合消防本部盛岡中央消防署山口典行救急救助係主査 | 奥州金ケ崎行政組合消防本部橘山義孝消防救急課長補佐兼救急係長 | 釜石大槌地区行政事務組合大槌消防署下村勝寿救急主任 |
| ・基幹病院における受け入れ状況 | （15分） | 県立中央病院伊藤奈央地域医療福祉連携室主任看護師 | 県立胆沢病院氏家育美地域医療福祉連携室主任看護師 | 県立釜石病院紺野千鶴外来看護師長 |
| ４　看取り | 　終末期におけるがん疾患と非がん疾患の違い、緩和ケアの実際、患者の意思確認や、患者及び家族への支援を把握。 | 45分 |  |
| ・終末期の医療、終末期の医療に係る説明と同意のあり方、その手続きについて | （15分） | 本間内科医院本間博医師 | 奥州市国民健康保険まごころ病院及川雄悦院長 | せいてつ記念病院寺田尚弘副院長 |
| ・特養等の生活の場、介護職員における終末期対応 | （15分） | 特別養護老人ホーム山岸和敬荘田中奈緒介護リーダー | 特別養護老人ホームいいとよ赤坂はるみ介護主任 | 特別養護老人ホーム三陸園川崎教申生活相談員 |
| ・自宅における終末期対応 | （15分） | 訪問看護ステーションもりのみやこ森明子所長 | 金ケ崎町訪問看護ステーション高橋嬢子所長 | 訪問看護ステーションメディケアガルシア小織所長 |
| ５　在宅療養者の介護を経験された家族の講話 | 当事者である患者や家族が抱く不安を理解するとともに、どのような支援のあり方が求められるのかを理解していくために実施。 | 45分 | 盛岡市在住竹田アサ様久喜美知子様 | 奥州市胆沢区在住千葉智秋様 | 宮古市在住神林敦子様 |
| グループ討論（その２） | 研修の締めくくりとして実施。（テーマの例）・在宅医療をめぐる住民の不安にどう向き合うか・住民の不安に向き合う多職種連携をどのように構築していくか | 60分 | 司会者未来かなえ機構　安部白道事務局長 | 司会者在宅医療連携拠点チームかまいし　小田島史恵連携コーディネーター | 司会者在宅医療連携拠点チームもりおか　板垣園子所長 |
| 上記のほか、３及び４の全ての講師が各班ごとに助言者として参加 |

６　会場及び日程

　　３ヶ所（県央、県南、沿岸）

|  |  |
| --- | --- |
| 会場 | 日時及び会場施設 |
| 盛岡会場 | 平成28年11月28日（月）16：00～19：15頃　岩手県医師会館 |
| 平成28年11月29日（火）16：00～19：30頃　岩手県医師会館 |
| 奥州会場 | 平成28年10月17日（月）16：00～19：15頃　健康増進プラザ悠悠館（奥州市国保まごころ病院隣接） |
| 平成28年10月18日（火）16：00～19：30頃　健康増進プラザ悠悠館（奥州市国保まごころ病院隣接） |
| 釜石会場 | 平成28年10月26日（水）16：00～19：15頃　釜石情報交流センター |
| 平成28年10月27日（木）16：00～19：30頃　釜石市青葉ビル |

７　定員

　　１か所あたり30～40名（受講者８～10人程度でグループ討論４班程度を構成）

８　開催等スケジュール見込

　①　講師選定と及び開催日程の確定　８月下旬

　②　受講者周知、募集、決定　　　　９月

　③　研修開催時期　　　　　　　　　10月以降年内開催（上記のとおり）